

平成 25 年 12 月遠野市議会定例会

# 遠野市長所信表明演述

平成 25 年 12 月 6 日

遠 野 市

## 1 はじめに

本日ここに、平成 25 年 12 月遠野市議会定例会が開会されるに当たり、あらためて就任のごあいさつを申し上げますとともに、今後の市政運営の基本的な方向につきまして、所信の一端を申し述べます。

私は、去る 10 月 20 日に執行されました市長選挙におきまして、市民の皆さまの温かいご支援を賜り、3 期連続、無投票での当選となり、遠野市長として 3 期目の市政の舵取りを担うことになりました。あらためて、ずっしりと重い責任を感じ、身の引き締まる思いであります。

これまで、私は「遠野スタイルによるまちづくり」の推進のため、全身全霊を傾けてまいりました。

この 4 年間を振り返りますと、特に心に刻むべき二つの大きなことがありました。

## 2 前期 4 年を振り返る

### (東日本大震災)

その一つは、「忘れてはならない、忘れさせてはならない」東日本大震災です。

東日本大震災から 2 年 9 カ月が経過しようとしています。沿岸被災地では、今なお約 1,100 人の方々が行方不明となっています。

犠牲になられた方々に、心から哀悼の意を、ご家族・関係者の皆さまに衷心よりお悔やみ申し上げます。

沿岸被災地では今も、用地取得の難航や人材・資材不足により公営住宅などの整備に遅れが見られ、現在も 3 万 6 千人もの被災者が仮設住宅暮らしを余儀なくされています。

この間、沿岸被災地の復興に向け、本市としての役割を常に考え、3 万人市民の皆さまがそれぞれの立場を踏まえ、気持ちを一つにしながら懸命に取り組んでまいりました。

今年 9 月には、その後方支援活動の成果と課題をまとめた「遠野市後方支援活動検証記録誌」を発刊し、今後の広域防災・減災における活用が期待されるところであります。

### (遠野物語発刊 100 周年記念事業)

二つ目は、遠野物語発刊 100 周年記念事業であります。

平成 17 年 10 月 1 日、新遠野市が誕生しました。市民一体となり、新たな遠野らしいまちづくりに取り組むために位置付けたのが、この記念事業でした。

市民企画委員会を立ち上げ、企画から実施まで多くの市民の皆さまに参加していただきました。数々の取り組みの一つひとつが新たな物語であり、まちの力とふるさとへの誇りにつながったことと確信しました。

私は、この一連の記念事業の中において、「願わくはこれを語りて平地人を戦慄せしめよ」という柳田國男先生が発した言葉を何度も使わせていただきました。

百年経った今なお「光り輝く言葉」として、今後も大事にしてまいりたいと思っております。

### 3 基本姿勢

さて、市政運営にあたりましては、「公平・公正・公開」を基本とし、市民の皆さまとの対話を重ねた「現場主義」を貫き、「知恵と工夫」の中から問題解決に立ち向かい、全力で「汗」をかきます。そして、「意識・組織・制度」の壁に挑み、「連携と交流」を基本にネットワークを大事にしながら市政運営に当たります。

#### (5つの視点)

私は、これからの 4 年間、市長として市政課題の解決に取り組むに当たり、特に次の 5 つの視点に立ち、託された責任を未来につないでまいります。

1 つは「維持」することです。

地方交付税が減少傾向にある中、健全財政を維持し、プライマリーバランス（基礎的財政収支）の確保に努めてまいります。

2 つ目は「推進」です。

行財政改革の推進と第3セクターなどの関係機関とのパートナーシップの構築を推進してまいります。

3つ目は「加速」です。

今年5月、外部有識者7人を構成員とする第2次進化まちづくり検証委員会をスタートさせました。10年後、30年後をイメージした「地域コミュニティ」「人材育成」「庁舎機能のあり方」の3点について、検証を加速させてまいります。

4つ目は「構築」です。

高齢化率が高まる中、いかにして健康寿命を延ばすかを念頭に、保健、医療、福祉の連携と官民一体の仕組みを、再び構築してまいります。

5つ目は「展望」です。

交通インフラ整備が進む中、交流人口の拡大、雇用の場を確保するため、当市が持つさまざまな優位性や独自性を踏まえた未来の展望を見い出してまいります。

この5つの視点を大切に、目先のことに捉われることなく、10年先、30年先はどうかを常に意識してまいります。

#### **4 緊急的優先課題**

##### **(地域経済の振興と雇用の確保、交流人口の拡大)**

次に、私が公約として掲げた、直ちに取り組むべき2つの緊急・優先課題の取り組みについて申し上げます。

1つ目は、地域経済の振興と雇用の確保、交流人口の拡大への取り組みについてです。

当市の農業は、地域を支える基幹産業となっていますが、農業を取り巻く環境は、高齢化や後継者不足に加え、TPP問題や減反政策の見直しなど、厳しい状況が続いております。

そのため、今年2月に作成した市内11地区の地域農業マスタープランに基づき、「担い手支援」、「新規就農者の確保」、「農地の集積」を推進するとともに、平成22年3月に策定した「遠

野市農林水産振興ビジョン」、通称「タフ・ビジョン」を基に、足腰の強い農林畜産業の振興をさらに加速して取り組みます。

東北横断自動車道釜石秋田線が震災後、加速度的に工事が進み、全通することが見えてきました。国道 340 号の立丸峠のトンネル化が決まり、宮古市側では、すでに工事が始まっています。こうした交通インフラの整備に伴い、地場産業の強化や、遠野東工業団地をはじめとする工場適地の確保、交流人口の拡大などの環境づくりに取り組みます。

また、多様なニーズへの対応のため、第 1 次、第 2 次、第 3 次産業の枠組みを超えた産業連携、いわゆる 6 次産業化に向け、農産物加工施設の整備や加工品開発への取り組み、販売促進に対する支援を強化してまいります。

来春に予定されている J R 東日本による S L 運行を機軸に、J R 遠野駅から市民センターまでの通りを中心とする町家・商家の景観保全などの再整備、宮守町の「mm 1」やめがね橋周辺の環境整備にも取り組みます。

#### **(少子化対策と教育環境の整備)**

2 つ目は、「子育てするなら遠野」をキャッチフレーズとした、少子化対策と教育環境への取り組みについてです。

保護者の皆さまが安心して子育てができるよう、引き続き、子育て総合支援センターを中核に、教育委員会、遠野市保育協会などとの連携を図り、出産から幼児期、高校生までの切れ目ない子育て支援に取り組みます。

上郷、宮守地区の子育て支援住宅の団地化の推進や、子育て支援を目的とした住宅リフォーム、奨学金制度の充実にも取り組みます。

7 年の歳月をかけて進めてきた中学校再編成の取り組みが実を結び、今年 4 月 1 日から、遠野中学校、遠野東中学校、遠野西中学校の 3 校が開校し、順調なスタートを切ることができました。今後は、次代を担う子どもたちが、「知育」「徳育」「体育」といった総合的な学力、自ら

の力で未来を切り拓く基礎学力の向上に取り組めます。

平成 28 年には「希望郷いわて国体」が開催され、当市は、サッカー少年男子の会場地に決定しております。開催に向け、遠野運動公園陸上競技場などの環境整備に取り組むほか、市役所内に推進組織を立ち上げ、国体成功に向けた準備を進めてまいります。

また、郷土芸能団体の育成支援や、遠野遺産認定制度の一層の充実など、地域文化の保全・継承にも取り組めます。

直ちに取り組む 2 つの取り組みについて、述べさせていただきました。1 つ目が生活環境、雇用の確保であり、2 つ目は、人づくりとして捉えております。

なお、これらの取り組みに要する予算については、可能なものから 12 月補正予算として計上したところであります。

## 5 課題解決に向けた取り組み（10・とおの約束）

私は、4 年前の市長選挙において「10 の約束」を 80 項目に整理し、その実現に全力を挙げてまいりました。その約 9 割が「達成」または「着手」という結果を得ることができました。

今回、私はさらに発展させるため、あらためて「10・とおの約束」として 64 の項目を掲げたところです。

行政は、「継続」であり、常に「現場」であります。その、「継続」「現場」という視点から将来を見誤らない展望、そして、未来を見い出していかなければなりません。

加速される高速交通ネットワークに備えた、地域づくりが待ったなしの課題であります。

遠野には、健全な地域コミュニティーなど、人と人を結び、地域と地域との絆が育まれております。

私は、あえてマニフェストという言葉を使わず「10・とおの約束」という形で、市民の皆さま

ま、議員各位に示させていただきました。

その実現には、お示した約束を全職員が共有し、仕事に向き合わなければならないと考えております。

そのため、3期目のスタートに当たり、この1カ月、6回にわたり全職員を対象に私の思いを述べてまいりました。これには、誰一人欠席することなく、全日程を終了することができました。

また、職員との一体感をさらに深めるため、部ごとに意見交換を行うこととし、いわゆる職場訪問を実施することとしております。

その後において、市民の皆さまと「市長と語ろう会」を開催したいと考えております。

## 6 むすび

「合併前・合併後」そして「震災前・震災後」と、市町村を取り巻く情勢や環境は大きく変貌しました。

就任以来、「ぼやくな・ひるむな・ひがむな」を基本スタンスとして、厳しい行財政事情に立ち向かうため、多くの市民の皆さまのご理解とご支援をいただき、ひたすら「挑戦の気概」をもって課題解決に取り組んでまいりました。

合併してから早や8年。この間、「新遠野市のまちづくり」計画の中で市民の皆さまにお約束した課題解決に全力で取り組み、概ね約束事項をそれぞれ「形」にすることができました。

合併協定項目は119項目ありましたが、平成22年度をもって全てを調整することができました。対等合併の中で、市民の皆さまに約束したことを全て果たすことができたのは、それぞれの立場の各団体の皆さまの理解が得られた結果であると確信しております。

総合計画後期基本計画では、計画に登載した148事業のうち129事業に着手することができ

ました。平成 24 年度のまちづくり指標においては、141 指標のうち 110 指標について、概ね達成することができました。

第 1 次遠野市経営改革大綱においては、集中改革プラン 518 項目のうち 488 項目に取り組むことができました。

このほど、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が発表した当市の将来人口は、約 30 年後には、17,786 人まで減少すると推計されています。平成 22 年の人口数に比べ、約 12,000 人減少することが予想されています。

人口減少、高齢化は避けて通れないことではありますが、魅力ある新たなまちづくりの仕組みを構築していかなければなりません。

そのため、この 5 月に立ち上げた「第二次進化まちづくり検証委員会」では、90 行政区の見直し再編などを視野に、外部有識者の皆さまの意見を取り入れながら、検討を進めております。

常に私は、スピード感を持ち、タイミングを失することなく、バランス感覚を保ち、ネットワークを構築しながら総合力で行うことを意識してきました。また、このことを職員にも常に求めてきました。

12 月 1 日に人事異動を行いました。本庁舎整備、国体開催、新エネルギービジョン策定という重要課題解決などのため、平成 26 年度を視野に体制整備を図りました。

市政を活力あるものに変えるのは、志あるリーダーと市民の皆さまとの「協働作業」です。その作業には、事実を、そして現状を正確に把握する中で、不動の信念が常に求められます。

私は「遠野スタイル」による「再生への挑戦」を掲げ、遠野市政のさらなる改革のため、全力投球で取り組む覚悟であります。

遠野の誇るべき地域資源である「自然・歴史・文化・風土」をゆるぎない基盤として捉え「地



理的、歴史的、地勢的」優位性を最大限活かし、近未来を意識した「遠野市の再生」をダイナミックに推進していかなければなりません。

基礎自治体としての全国市町村の行財政の現状は、益々厳しさを増しております。道州制・広域連合、国や県の望ましい姿は依然見えてまいりません。だからこそ、今、住民生活に直結している市町村という現場から、新たな発想に基づきさまざまな仕組みのあり方を提言し、行動を起こしていかなければなりません。

課題は山積しております。その中で、厳しい行財政の中において財源をやりくりし、「ぬくもり」「絆」という言葉を大切にしながら「永遠の日本のふるさと」として着実な発展を遂げることができるよう、今後もたゆまぬ努力と挑戦の気概を持って「全力投球」します。そして、「一所懸命」やらせていただきます。さらには、「誠心誠意」、課題に挑戦してまいりたいとあらためて覚悟しているところです。

今年も、遠野高校、遠野緑峰高校の文化祭に足を運びました。生徒諸君の笑顔ときびきびした態度に接し、大変頼もしい思いがしました。

遠野高校では「遠野再発見」が企画され、生徒の目で捉えた遠野の魅力が会場いっぱいに掲示されておりました。

遠野緑峰高校では、被災地と向き合いながら、廃棄されるひまわりの種と茎で作られる、夢をかなえるドリームキャッチャーの制作販売について話を聞くことができました。

さる 11 月 28 日に開催された、第 5 回遠野市農林水産振興大会の場でも発表がありました。

「ドリームキャッチャー」。

将来を見据え、若い生徒諸君の「夢」と「希望」をしっかり受け止めるための地域づくりに、全身全霊を傾けてまいります。

終わりに、議員各位をはじめ、市民の皆さまのご理解とご協力を賜りますよう心からお願い

申し上げまして、私の所信とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。